地震、津波、洪水、高潮、土砂災害、雪害やそれに伴う集落の孤立に対しては、際限のない自然の脅威も想定して、府県あるいは圏域を越えた広域的な防災体制や、民間物流事業者と連携した緊急物資輸送体制等の確保など、ハード・ソフト一体となった総合的な防災・減災対策が必要である。特に、住民の生命と財産を守るため、あらかじめ地域の防災機関が集まり、取るべき防災行動、タイミング、役割等を規定したタイムライン（時系列の行動計画）の整備が重要である。

また、住民自身による自助、地域のコミュニティ等における共助が重要な役割を果たすことから、地域防災力の強化が課題であり、災害発生時における応急復旧及び復興をスムーズに進めるには、非常時において最低限の都市機能を維持できる仕組みを構築することが必要である。さらに、東日本大震災の復旧復興などに貢献している地籍調査※６は、平成26年度末時点で全国平均に対し遅れている状況であり、今後の南海トラフ巨大地震等に備えて地籍調査を進めていくことが課題である。

⑺　社会資本の老朽化

近畿圏においても、日本万国博覧会（1970年）を中心とした高度経済成長期に集中的に整備された社会資本の老朽化が進んでおり、建設後50年を経過する施設の割合が今後20年間で加速度的に高くなる。

そのため、厳しい財政状況の下で、維持管理・更新費用の増大を極力抑え、予防保全の考え方に基づいて施設の長寿命化を図ること等、戦略的かつ適切な維持管理・更新を進めることが課題である。

また、小規模な自治体において、管理する施設の老朽化対策に必要とされる技術力・人員確保、メンテナンス分野の業者の育成等の課題が生じており、国、府県による技術支援や、自治体間相互の連携などの下で、総合的な計画の立案、支援体制の確立等が急務となっている。

⑻　近畿圏を巻き込む大きな社会の潮流変化

世界の人口増加、新興国の経済発展に伴う食料、水、エネルギー、鉱物資源等の需要の急増や地球温暖化による影響への対応、生物多様性の確保が求められている。人口増加や産業の急成長に伴い環境悪化が社会問題化しているアジアの新興各国等から、環境分野において優れた技術の輸出や指導的役割を期待されている。

ライフスタイルについては、結婚や出産後も仕事の継続を希望する女性や、退職後も働き続ける意向を持つ元気な高齢者が増加するとともに、自然や地域に根付いた豊かさを求める地域志向や、都市住民に田園回帰の希望がみられるなど、多様化しており、結婚、子育て、就業、転居等様々なライフステージでのニーズを実現しやすい環境整備が求められている。

地域コミュニティについては、都市における家族形態の変容、職住分離、住民の頻繁な移動や、地方におけるコミュニティ構成員の高齢化・減少等により、弱体化が進展しており、それに伴い、近年、多様な主体が協働し、コミュニティが担っていた社会サービス等を代替、補完する動きがみられる。今後も少子高齢化が進展する状況においては、このように多様な主体による共助社会づくりを進めていくことが課題である。

また、ＩＣＴの劇的な進歩により、ビッグデータ※７が幅広い分野において様々なイノベーションを生み出しており、オープンデータ※８の多様な主体による活用が期待されるとともに、データ・トラフィック※９の急増への対応が必要である。生産性向上に資するＩＣＴは今後も劇的に進歩し、幅広い分野において技術革新が進展すると考えられ、防災対策や公共施設の効率的な活用にＩＣＴを活用するなど、技術革新を我々の暮らしや社会の向上に役立て、国土形成に柔軟に取り込んでいくことが課題である。

## 第２章　近畿圏の将来像とその実現のための施策

長い歴史を有し、伝統・文化にあふれた近畿圏が、世界に誇る我が国随一の観光圏域であることは論をまたない。国内外の旅行者による千客万来の状況は既に現実のものとなってきている。このことは、我が国の生活文化、製品等を幅広く世界に知らしめる場、国際交流の場として近畿圏が大きく飛躍する高いポテンシャルがあることも示している。

医療・健康分野を中心とした知と産業の集積とものづくりの伝統、さらに成長著しく大きなマーケットであるアジアのゲートウェイとしての機能は、世界に向けた新しい産業として我が国の成長エンジンとなり得る強みである。

また、多核的な都市構造を持つ現在の京阪神の都市は、通勤しやすさ、住みやすさ、暮らしやすさ等の面で、首都圏を圧倒的にしのいでおり、多様な地方都市、豊かな自然と奥深い文化に恵まれた農山漁村は、地域に脈々と受け継がれてきた農林水産業の６次産業化などの積極的な取組により、至るところで全ての世代が希望を持って生き生きと暮らすことができる圏域へと変化していく可能性を秘めている。

京阪神都市圏のミッシングリンクを解消し、南海トラフ巨大地震による災害の脅威を克服しつつ、首都圏に次ぐ我が国第２の都市圏である近畿圏が、首都圏、中部圏とともにそれぞれの個性を発揮して「スーパー・メガリージョン」の形成を推進し、複眼型の巨大都市圏域の一翼を担うことが期待されている。

先進国の中でも異例ともいえる東京への一極集中是正の牽引役となることは、国土形成に果たす重要な役割でもある。

そこで、国、地方公共団体、経済団体、民間事業者、大学・研究機関、ＮＰＯ、住民等の関係主体による適切な役割分担の下、日本を牽引し世界に誇ることができる強みを十分に発揮するため、目指すべき圏域像を掲げ、その実現に向けた戦略を推進していく。

### 第１節　目指す姿

１　アジアのゲートウェイを担い、我が国の成長エンジンとなる圏域

○アジアを中心に世界との活発な経済的・人的交流を通じ、我が国の経済の中核として成長し、スーパー・メガリージョンの一翼を担う圏域。

○大学、民間企業や国立研究開発法人等の研究機関、関西文化学術研究都市等の研究開発拠点及び知の交流拠点の連携を進め、バランスのとれた第２次産業の蓄積をいかし、我が国の成長を牽引する次世代産業が健康・医療産業等の分野で次々と生まれる圏域。

○グローバルニッチ企業や新たなビジネスモデルを展開する企業が生まれ、成長していく圏域。

○世界の人々を惹きつける長い歴史・伝統文化を強みとした観光誘客により我が国の成長を牽引する圏域。

○次世代につながる産業を生み出し、東京との対峙ではなく世界を見据え、我が国のなかでもチャレンジングである成長エンジン圏域。

○西日本の圏域と連携し、日本海・太平洋の２面活用による利点もいかしながら、アジアを中心とした世界のゲートウェイとしての地位を築く圏域。

２　日本の歴史・伝統文化が集積し、世界を魅了し続ける圏域

○長い歴史とそれに培われた伝統文化を有し、多くの個性的な地域と豊かな自然等、歴史・文化資産や豊富な地域資源を次世代に継承する圏域。

○各地で創造・継承・蓄積されてきた歴史・文化資産をいかした個性あふれる地域づくりにより、世界の人々を惹きつけてやまない圏域。

○訪れる全ての方々が至るところで、快適に過ごし、その地域の魅力を存分に味わうことができる圏域。

○世界に誇る歴史・文化の資産と豊かな自然環境、さらには現代の地域の魅力を基にして、国際的な文化交流の中心として、また、日本を訪れる外国人旅行者を惹きつけてやまない千客万来の観光圏域。

３　快適で豊かに生き生きと暮らせる圏域

○京阪神都市圏においても、地方都市においても、個性豊かな都市がそれぞれネットワークで結ばれ、多核的な構造を形成する圏域。

○本格的な人口減少社会の到来に対応して、各都市に応じた「コンパクト」化と「ネットワーク」づくりを進め、活力と個性あふれ、安心して子どもを産み育てることができる圏域。

○都市圏と自然豊かな農山漁村との近接性をいかし、「二地域居住※10」や「二地域生活・就労※11」等の多様な生活様式が選択できる圏域。